

平成22年度登録販売者試験問題

茨城県

(平成22年8月12日 午後)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 この試験問題における「薬事法」は、薬事法の一部を改正する法律（平成18年法律第69号）による改正後の薬事法とする。
- 2 試験問題は問61から問120までの60問で、解答はすべて答案用紙に記入すること。1つの解答欄に複数解答した場合、その箇所は無効とする。
- 3 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者は、試験を無効とし、または合格を取り消すことがある。
- 4 答案用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておくこと。
- 5 退場する時は、答案用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従うこと。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができる。

【 答案用紙への記入上の注意 】

- ①受験番号、氏名のフリガナに誤りが無いことを確認し、氏名を記入してください。
- ②マークはHBより濃い鉛筆で、解答の数字の枠の中を塗りつぶしてください。
- ③マークを消す時は、消しゴムで完全に消し、消しくずはよく払ってください。
- ④マークの仕方
良い例 ● 悪い例 ○ □ ⊖ ⊗
薄い 短い 細い はみでる

主な医薬品とその作用 (40問)

【問61】 かぜとかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜとよく似た症状が現れる疾患は多数あるが、急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき又は悪化するようなときは、かぜではない可能性が高い。
- b かぜ薬とは、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から取り除くものではなく、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称である。
- c かぜであるからといって必ずしもかぜ薬が選択されるのが最適ではなく、発熱、咳など症状がはっきりしている場合には、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬などが選択されることが望ましい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問62】 かぜ薬（総合感冒薬）に含まれる成分と配合目的に関する組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	成分		配合目的
1	フマル酸クレマスチン	—	炎症による腫れを和らげる。
2	イブプロフェン	—	咳を抑える。
3	エテンザミド	—	鼻粘膜の充血を和らげ、気管支を広げる。
4	グアイフェネシン	—	痰の切れを良くする。

【問63】 妊娠及び妊娠検査薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊娠が成立すると、胎児（受精卵）を取り巻く絨毛細胞からヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が分泌され始める。
- b 一般用医薬品の妊娠検査薬は、血液中のhCGの有無を調べるものである。
- c 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日の1週間前の検査が推奨されている。
- d 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくてもhCGが検出されることがある。

1 (a、c)	2 (a、d)	3 (b、c)	4 (b、d)
---------	---------	---------	---------

【問64】 次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 グリチルリチン酸を心臓病や腎臓病の診断を受けた人が大量に摂取すると、カリウム貯留、ナトリウム排泄促進が起こり、むくみ等の症状が現れるおそれがある。
- 2 グリチルリチン酸は医薬品だけでなく医薬部外品にも用いられることがあるが、一般食品に用いられることはない。
- 3 医薬品の配合成分として用いられる塩化リゾチームは、鶏肉から抽出した成分であるため、鶏肉アレルギーがある人は使用を避ける必要がある。
- 4 セミアルカリプロテナーゼは、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用があるため、血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。

【問65】 かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき製剤の正しい組み合わせはどれか。

（ a ）は、くしゃみや鼻汁・鼻閉（鼻づまり）等の鼻炎症状、薄い水様の痰を伴う咳、気管支炎、気管支喘息等の呼吸器症状に適すとされる。

（ b ）は、かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適すとされる。

（ c ）は、かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適すとされる。

	a	b	c
1	葛根湯 かっこんとう	小柴胡湯 しょうさいことう	小青竜湯 しょうせいりゅうとう
2	葛根湯 かっこんとう	小青竜湯 しょうせいりゅうとう	小柴胡湯 しょうさいことう
3	小青竜湯 しょうせいりゅうとう	葛根湯 かっこんとう	小柴胡湯 しょうさいことう
4	小青竜湯 しょうせいりゅうとう	小柴胡湯 しょうさいことう	葛根湯 かっこんとう

【問66】 口腔咽喉薬及び含嗽薬（うがい薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 噴射式の液剤では、咽喉頭の奥まで薬剤が行き渡るように、息を吸いながら噴射することが望ましい。
- b 用時希釈又は溶解して使用する含嗽薬は、濃度依存的に効果が高まるため、調製する濃度はなるべく高くした方がよい。
- c ヨウ素系成分が配合された用時希釈して使用する含嗽薬は、ビタミンCが含まれる飲料で希釈すると殺菌作用が増強される。
- d ヨウ素系成分が配合された含嗽薬を使用した場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問67】 解熱鎮痛成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンは、ライ症候群の発生との関連性が示唆されているため、一般用医薬品では15歳未満の小児に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。
- b アスピリンやサザピリンはピリン系の解熱鎮痛成分であり、ピリン疹と呼ばれるアレルギー症状をもたらすことがある。
- c アセトアミノフェンは、中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすほか、抗炎症作用も期待できる。
- d アセトアミノフェンは、定められた用量を超えて使用した場合や、日頃から酒類（アルコール）をよく摂取する人では、肝機能障害を起こしやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問68】 カフェインとそれを主たる有効成分とする眠気防止薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カフェインは、心筋を興奮させる作用があり、動悸が現れることがあるため、心臓病の診断を受けた人は眠気防止薬の服用を避ける必要がある。
- b カフェインは、胃液の分泌を亢進させる作用があり、胃腸障害が現れることがあるため、胃潰瘍の診断を受けた人は眠気防止薬の服用を避ける必要がある。
- c カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を収縮させる働きがあるため、眠気防止薬の服用により尿量が減少することがある。
- d 乳児の場合、カフェインの代謝は成人より速い。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問69】 次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 眠気を促す薬に含まれる抗ヒスタミン成分は、脳の下部にある、睡眠・覚醒に大きく関与する部位においてヒスタミンの働きを抑えるため、眠気が促される。
- b 鎮痛薬に含まれる臭化水素酸スコポラミンは、消化管の緊張を低下させる作用を示すが、中枢に対する作用は期待できない。
- c 鎮痛薬に含まれるキサンチン系成分は、脳に軽い鎮静作用を示し、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる。
- d 眠気を促す薬や鎮痛薬に含まれる抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 7 0】 咳を抑える成分（鎮咳成分）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リン酸コデインは、作用本体であるコデインがモルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- b リン酸コデインは、自律神経系を介して気管支を拡張させ、鎮咳作用を示す。
- c リン酸コデインは、胃腸の運動を亢進させる作用を示すため、副作用として下痢が現れることがある。
- d ノスカピンや臭化水素酸デキストロメトルファンは、中枢神経系に作用して咳を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

【問 7 1】 次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸メチルエフェドリンやメチルエフェドリンサッカリン塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させ、咳を鎮める作用がある。
- b 生薬成分のマオウは気管支拡張のほか、発汗促進、尿量増加（利尿）等の作用も期待される。
- c 塩酸プソイドエフェドリンは、パーキンソン病治療薬である塩酸セレギリンと併用すると、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が妨げられて、副作用が現れやすくなるおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正

【問 7 2】 鎮咳去痰薬に含まれる成分と配合目的に関する組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	成分	配合目的
1	ジプロフィリン	— 気管支拡張
2	塩酸ブロムヘキシン	— 殺菌消毒
3	塩酸エチルシステイン	— 抗炎症
4	リン酸ジメモルファン	— 抗ヒスタミン

【問73】 心臓の働き及び強心薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 体の不調による動悸は、心臓の働きが低下して十分な血液を送り出せなくなり、脈拍数が減少することによって起こる。
- b センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。
- c ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d 強心薬については一般に、5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因も考えられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問74】 血中コレステロールに関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

コレステロールは細胞の構成成分であるとともに、(a)の産生に重要な物質でもある。低密度リポ蛋白質(LDL)は、コレステロールを(b)から(c)へと運ぶリポ蛋白質であり、高密度リポ蛋白質(HDL)は、コレステロールを(c)から(b)へと運ぶリポ蛋白質である。

	a	b	c
1	胆汁酸	末梢組織	肝臓
2	胆汁酸	肝臓	末梢組織
3	胃酸	末梢組織	肝臓
4	胃酸	肝臓	末梢組織

【問75】 高コレステロール改善薬やその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脂溶性物質である大豆油不^{けん}飽化物（ソイステロール）やリノール酸を含む植物油は、高コレステロール改善成分として用いられる。
- b ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑える作用があるとされる。
- c 血中コレステロール異常の改善には、生活習慣の改善が図られることが重要であり、高コレステロール改善薬の使用による対処は、食事療法や運動療法の補助的な位置づけである。
- d 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの^{もろ}瘦身効果や、体重減少の目的としても用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤

【問76】 貧血及び貧血用薬（鉄製剤）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 鉄分の摂取不足を生じても、初期にはヘモグロビン量が減少するのみで貯蔵鉄や血清鉄は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。
- 2 貧血の症状がみられる以前から予防的に鉄製剤を使用することは、適当でない。
- 3 貧血は、その原因によりいくつかに分類されるが、ビタミンB₁₂が不足して生じる巨赤芽球貧血は悪性貧血と呼ばれている。
- 4 硫酸コバルトは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態（ヘム鉄）に保つことを目的として鉄製剤に配合される。

【問77】 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いる漢方処方製剤として、適当でないものはどれか。

- 1 当^{とう}帰^き芍^{しやく}薬^{やく}散^{さん}
- 2 麦^{ばく}門^{もん}冬^{とう}湯^{とう}
- 3 加^か味^み逍^{しやう}遙^{よう}散^{さん}
- 4 桃^{とう}核^{かく}承^{じやう}気^き湯^{とう}
- 5 温^{うん}経^{けい}湯^{とう}

【問78】 ユビデカレノンに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分であり、別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- b 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際に、ビタミンCとともに働く。
- c 一般用医薬品でユビデカレノンを含む製剤は、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- d 一般用医薬品でユビデカレノンを含む製剤には、15歳未満の小児向けの製品はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問79】 アレルギーに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルゲン（抗原）が体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって脂肪細胞が刺激され、ヒスタミンやプロスタグランジン等の生理活性物質が遊離する。
- b 細胞から遊離したヒスタミンは、周囲の器官や組織の表面に分布する特定の蛋白質（受容体）と反応することで、血管収縮作用を示す。
- c アレルギー症状を予防するために、症状が現れる前から一般用医薬品のアレルギー用薬を使用することは適当である。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	誤	誤	誤

【問80】 鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 塩酸フェニレフリンは、鼻粘膜を通っている血管を拡張させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として用いられる。
- 2 クロモグリク酸ナトリウムは、細胞から遊離されたヒスタミンの働きを抑え、鼻アレルギー症状を緩和することを目的として配合される。
- 3 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬で、蓄膿症が対象となっているものはない。
- 4 鼻炎用点鼻薬は、鼻腔内に適用される外用液剤であり、局所的な作用を目的としているため、全身的な影響を生じることはない。

【問 8 1】 次の症状に用いられる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすい人における、胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐おうに適すとされる。

- 1 八味地黄丸はちみじおうがん
- 2 麻子仁丸ましにんがん
- 3 六君子湯りっくんしとう
- 4 四物湯しもつとう

【問 8 2】 胃腸に作用する薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 健胃薬、消化薬、整腸薬には、医薬部外品として製造販売されている製品もあるが、それらは人体に対する作用が緩和なものとして、配合できる成分やその上限量が定められている。
- 2 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として、ジメチルポリシロキサンが配合されている場合がある。
- 3 味覚や嗅覚きゅうを刺激して反射的な胃液の分泌を抑制することにより、弱った胃の働きを高めることを目的として、オウバク等の生薬成分が配合されている場合がある。
- 4 腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として、薬用炭が配合されている場合がある。

【問 8 3】 消化器官用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸セトラキサートは、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じるため、血栓を起こすおそれのある人は、使用する前に医師などに相談することが望ましい。
- b 塩酸ピレンゼピンは、主に消化管の運動に影響を与えることにより、胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。
- c 制酸成分のうち重曹は、アルミニウムを含むので、透析治療を受けている人では使用を避けることが望ましい。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

【問 8 4】 次の表はある消化器官用薬に含まれている成分の一覧である。

(9錠中)		
塩酸セトラキサート	600 mg	
ロートエキス3倍散	90 mg	(ロートエキス 30 mg)
沈降炭酸カルシウム	1200 mg	
水酸化マグネシウム	300 mg	

この医薬品の成分の特徴、使用上の注意に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸セトラキサートは、過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して配合されている。
- b ロートエキスは、便秘の症状を改善するために配合されている。
- c 沈降炭酸カルシウムは、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的として配合されている。
- d 吸収された成分の一部が母乳に移行して乳児の脈が速くなることがあるので、授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用中は授乳を避ける。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 8 5】 消化器官用薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 グリセリンは、直腸内で徐々に分解され、炭酸ガスの微細な気泡を発生させることで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- 2 ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。
- 3 マルツエキスは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくすることで排便しやすくすると考えられている。
- 4 瀉下薬に使用される酸化マグネシウムや硫酸マグネシウムは、そのほとんどが小腸から吸収され、大腸の水分吸収を抑えることにより、瀉下作用を現すと考えられている。

【問 8 6】 次の表はある消化器官用薬に含まれている成分の一覧である。

(3錠中)	
タンニン酸ベルベリン	100 mg
ロートエキス	20 mg

この医薬品の効能・効果として最も適切なものはどれか。

- 1 下痢、腹痛を伴う下痢、消化不良による下痢、食あたり、はき下し、水あたり、くだり腹、軟便
- 2 回虫の駆除
- 3 消化促進、消化不良、食欲不振（食欲減退）、食べ過ぎ、もたれ、胸つかえ、消化不良による胃部・腹部膨満感
- 4 二日酔い、流行性肝炎、脂肪肝、肝硬変症、黄疸、アルコール中毒、薬物中毒、自家中毒

【問 8 7】 次の医薬品成分のうち、利胆作用をもち、消化を助ける効果を期待して通常用いられるものはどれか。

- 1 マレイン酸トリメブチン
- 2 次没食子酸ビスマス
- 3 ウルソデオキシコール酸
- 4 タンニン酸アルブミン

【問 8 8】 次の表はある痔疾用薬に含まれている成分の一覧である。

1 個 (1.75 g) 中	
リドカイン	60 mg
グリチルレチン酸	30 mg
アラントイン	20 mg
酢酸トコフェロール	50 mg

各成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リドカインは、止血効果を期待して配合されている。
- b グリチルレチン酸は、肛門部の炎症を和らげる作用を期待して配合されている。
- c アラントインは、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として配合されている。
- d 酢酸トコフェロールは、肛門周囲の末梢血管の血行を改善する作用を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤

【問 8 9】 次のうち、駆虫薬の有効成分として使用されるものはどれか。

- 1 塩酸オキシフェンサイクリミン
- 2 サントニン
- 3 ヒマシ油
- 4 オキセサゼイン

【問 9 0】 次の症状に用いられる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

尿量が減少し、尿が出にくく、排尿痛あるいは残尿感がある人に適すとされる。

- 1 黄連解毒湯
- 2 猪苓湯
- 3 桂枝加竜骨牡蛎湯
- 4 大柴胡湯

【問9 1】 点眼薬に含まれる成分とその配合目的に関する次の組み合わせの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	成分		配合目的
a	塩酸ナファゾリン	—	充血除去
b	アズレンスルホン酸ナトリウム	—	組織修復
c	硫酸亜鉛	—	抗菌作用
d	イプシロン-アミノカプロン酸	—	抗炎症

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問9 2】 眼科用薬に含まれるビタミン類に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB₂は、正常な角膜中に存在するビタミン成分で、明暗順応に補酵素として働く。新陳代謝を改善する効果を期待して用いられる。
- b ビタミンB₆は、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を期待して用いられる。
- c ビタミンB₁₂は、目の調節機能を助ける作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	誤

【問9 3】 殺菌消毒薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩化ベンザルコニウムは、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が高まる。
- b ヨウ素の殺菌力は、アルカリ性になると高まる。
- c アクリノールは、赤色の色素で、創傷患部への刺激性が高い。
- d グルコン酸クロルヘキシジンは、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	誤

【問94】 外皮用薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副腎皮質ホルモンは、末梢組織の免疫機能を増強させる作用を示すため、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染を改善する目的で使用される。
- b テシットデシチンは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑制する作用を示し、筋肉痛、関節痛、腰痛等に用いられる。
- c ケトプロフェン配合の外皮用薬を使用している間及び使用後も当分の間は、塗布部が紫外線に当たることを避ける必要がある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	正

【問95】 外皮用薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 硝酸オキシコナゾールは、細菌のDNA合成を阻害する。
- b 硫酸フラジオマイシンは、細菌の蛋白質合成を阻害する。
- c スルファジアジンは、皮膚糸状菌の細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- d ウンデシレン酸は、患部を酸性にすることにより、皮膚糸状菌の発育を抑える。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問96】 歯槽膿漏薬に用いられる塩化セチルピリジニウムの配合目的に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 歯肉溝での細菌の繁殖を抑える。
- 2 炎症を起こした歯肉組織からの出血を抑える。
- 3 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待する。
- 4 歯周組織の血行を促す効果を期待する。

【問97】 ニコチンを含む^{そしゃく}咀嚼剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a インスリン製剤を使用している人では、ニコチンがインスリンの血糖降下作用を増強することにより、低血糖を引き起こすおそれがある。
- b 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料を摂取した後しばらくは使用を避けるべきである。
- c 非喫煙者では、吐き気、めまい、腹痛などの症状が現れやすい。
- d ニコチンは交感神経系を抑制させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用では、その作用を減弱させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

【問98】 滋養強壮保健薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB₁は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。
- b ビタミンB₆主薬製剤は、酪酸リボフラビン又はリン酸リボフラビンナトリウム等が主薬として配合された製剤で、口角炎、口内炎、皮膚炎等の症状の緩和に用いられる。
- c ビタミンC主薬製剤は、アスパラギン酸又はアスパラギン酸ナトリウムが主薬として配合された製剤で、しみ、そばかす等の症状の緩和、歯ぐきからの出血・鼻出血の予防に用いられる。
- d アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、筋肉や脳、心臓、目、神経等、体のあらゆる部分に存在し、細胞の機能が正常に働くために重要な物質である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 9 9】 次の記述にあてはまる生薬はどれか。

キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。血液循環が高まることによる利尿作用を示すほか、鎮痛作用を示すが、アスピリン等と異なり、プロスタグランジンを抑えないことから、胃腸障害等の副作用は示さない。なお、そのままでは毒性が高いことから、その毒性を減らし有用な作用を保持する処理を施して使用される。

- 1 ショウマ
- 2 ボウフウ
- 3 ブシ
- 4 レンギョウ

【問 1 0 0】 次のうち、ピレスロイド系殺虫成分はどれか。

- 1 ダイアジノン
- 2 フェノトリン
- 3 フェニトロチオン
- 4 メトキサジアゾン
- 5 メトプレン

医薬品の適正使用と安全対策 (20 問)

【問 1 0 1】 一般用医薬品の添付文書とその記載に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品に比べて作用が緩和であり、品質が安定しているため、市販後に添付文書が改訂されることはない。
- b 添付文書は、開封時に一度目を通されれば十分というものでなく、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。
- c 「使用上の注意」は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成されている。
- d 「使用上の注意」のうち「相談すること」の項目の見出しには、各製薬企業が任意で決めた標識的マークが付されている。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

【問 1 0 2】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用については、まず、まれに発生する重篤な副作用について発現部位別に症状が記載され、そのあとに続けて、一般的な副作用について副作用名ごとに症状が記載されている。
- b 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その使用した一般用医薬品の添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。
- c 一過性の軽い副作用（口の渇き、便秘、軟便、下痢）については、発現しても直ちに使用を中止する必要はないが、その症状の継続又は増強がみられた場合には、いったん使用を中止した上で専門家に相談する旨が記載されている。
- d 小児に使用される医薬品において、その医薬品の配合成分に基づく一般的な注意事項のうち、小児では通常当てはまらない内容は記載されていない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤

【問103】 緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a A4サイズの黄色地の印刷物で、ドクターレターとも呼ばれる。
- b 医薬品又は医療機器について重要かつ緊急な情報伝達が必要な場合に、独立行政法人医薬品医療機器総合機構からの指示に基づいて、製造販売元の製薬企業等から情報伝達されるものである。
- c 医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達である場合が多いが、一般用医薬品にも関係する緊急安全性情報が発出されたこともある。
- d 製造販売元の製薬企業等からその医薬品又は医療機器を取り扱う医薬関係者に対して、8週間以内に原則として直接配布し、情報伝達されるものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問104】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エアゾール製品は、薬事法の規定により「高圧に注意」の表示が義務づけられている。
- b 添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。
- c 使用期限の表示は、適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品でも法的な表示義務がある。
- d 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問105】 医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 散剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- b 眼科用薬は、複数の使用者間で使い回されると、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため、他の人と共用しないこととされている。
- c シロップ剤は、変質しにくいいため、開封後、冷蔵庫で保管する必要はない。
- d 医薬品を旅行や勤め先等へ携行するために別の容器へ移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

【問106】 次の成分のうち、その成分が含まれることによって、交感神経刺激作用により、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人は使用（服用）しないこととされているものはどれか。

- 1 塩酸ブソイドエフェドリン
- 2 アルジオキサ
- 3 臭化ブチルスコポラミン
- 4 エテンザミド

【問107】 次の成分のうち、その成分が含まれることによって、糖尿病の症状を悪化させるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、糖尿病の診断を受けた人は、その成分が含まれる医薬品を服用する前に、専門家に相談するよう注意を求めているものはどれか。

- 1 ロートエキス
- 2 塩酸メチルエフェドリン
- 3 臭化水素酸スコポラミン
- 4 硫酸ナトリウム

【問108】 次の成分のうち、その成分が含まれることによって、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病が再発するおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病にかかったことのある人は、その成分が含まれる医薬品を服用する前に、専門家に相談するよう注意を求めているものはどれか。

- 1 イブプロフェン
- 2 ジプロフィリン
- 3 塩酸ロペラミド
- 4 塩酸ジフェニドール

【問109】 次の成分のうち、その成分が含まれることによって、肝機能障害を悪化させるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、肝臓病の診断を受けた人は、その成分が含まれる医薬品を服用する前に、専門家に相談するよう注意を求めているものの、正しい組み合わせはどれか。

- a イソプロピルアンチピリン
- b リン酸コデイン
- c サントニン
- d 塩酸パパベリン

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問110】 医薬品・医療機器等安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 独立行政法人医薬品医療機器総合機構が、医薬品等による重要な副作用に関する情報を原則、毎年とりまとめ、広く医薬関係者に情報提供を行っている。
- b 医薬品・医療機器安全性情報報告制度により報告を行った薬局開設者、医薬品の販売業者及び医療機関等の医薬関係者には冊子が送付される。
- c 厚生労働省ホームページ及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」に掲載される。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |

【問 1 1 1】 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、本制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- b 医薬関係者が医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合には、本制度に基づき、その旨を都道府県知事に報告しなければならない。
- c 本制度は、1967年3月より、すべての医療機関及びモニターに指定した約3,000の薬局から副作用報告を受ける「医薬品副作用モニター制度」としてスタートした。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤

【問 1 1 2】 副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、薬事法第77条の3第2項の規定に基づき、製薬企業が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- b 製薬企業等が行う副作用等の報告は、医療用医薬品については報告義務はあるが、一般用医薬品については義務づけられていない。
- c 製薬企業等は、薬事法第77条の4の2第1項の規定に基づき、その製造販売をし、又は承認を受けた医薬品について、その副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知ったときは、その旨を定められた期限までに都道府県知事に報告することが義務づけられている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正

【問 1 1 3】 薬事法第77条の4の2第2項の規定に基づく副作用等の報告に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 報告期限は特に定められていないが、保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から報告の必要性を認めた場合は、適宜速やかに報告することとされている。
- b 医薬品との因果関係が明確な場合のみ報告の対象となる。
- c 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても報告がなされる必要がある。
- d 医薬品の使用上の注意に記載されている副作用だけが報告の対象となる。

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、d)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

【問 1 1 4】 次の医薬品副作用被害救済制度における給付の種類のうち、請求の期限が定められていないものはどれか。

- 1 障害年金
- 2 医療手当
- 3 遺族年金
- 4 医療費
- 5 遺族一時金

【問 1 1 5】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 殺虫剤は、救済制度の対象となる医薬品である。
- b 製品不良など製薬企業に損害賠償責任がある場合でも、救済制度の対象となる。
- c 医薬品の不適正な使用による健康被害については、救済給付の対象とならない。
- d 医療機関での治療を要さずに寛解したような軽度な健康被害は、給付対象に含まれない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 1 1 6】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 健康被害を受けた本人又は家族が給付請求できる。
- b 医療費等の給付は、副作用の原因となった医薬品を製造販売した製薬企業から健康被害を受けた本人に直接支払われる。
- c 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費の2分の1相当額は国庫補助でまかなわれる。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |

【問117】 医薬品副作用被害救済制度の給付に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句又は数値の正しい組み合わせはどれか。

障害児養育年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある(a)歳未満の人を養育する人に対して給付されるものである。

(b)は、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族の生活の立て直し等を目的として給付されるもので、最高(c)年間を限度とする。

	a	b	c
1	15	遺族年金	5
2	15	遺族一時金	10
3	18	遺族年金	5
4	18	遺族一時金	5
5	18	遺族年金	10

【問118】 塩酸フェニルプロパノールアミン含有医薬品に対して行われた安全対策に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

塩酸フェニルプロパノールアミンは、我が国においては、元来、(a)等に配合されていたものであったが、2003年8月までにその成分が配合された一般用医薬品による脳出血等の副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている(b)患者の使用によるものであった。そのため、厚生労働省より関係製薬企業等に対して、使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分として(c)等への速やかな切り替えにつき指示がなされた。

	a	b	c
1	鼻炎用内服薬	高血圧症	塩酸プソイドエフェドリン
2	胃腸鎮痛鎮けい薬	高血圧症	塩酸パパベリン
3	鼻炎用内服薬	緑内障	塩酸プソイドエフェドリン
4	胃腸鎮痛鎮けい薬	緑内障	塩酸パパベリン
5	鼻炎用内服薬	緑内障	塩酸パパベリン

【問 1 1 9】 医薬品PLセンターに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消費者の苦情について、製造販売元の企業との間で裁判による解決を導くことを目的としている。
- b 製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品PLセンターへの相談が推奨される。
- c 日本製薬団体連合会において、平成7年7月の製造物責任法の施行と同時に開設された。
- d 医薬品に関する苦情については申立ての相談を受け付けているが、医薬部外品に関する苦情は受け付けていない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

【問 1 2 0】 医薬品の適正使用のための啓発活動及び薬物乱用防止に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬物乱用や薬物依存は、覚せい剤や大麻などの違法薬物によるものばかりで、一般用医薬品によっては生じ得ない。
- b 「薬と健康の週間」は、医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的としている。
- c 薬物乱用防止を一層推進するため、毎年10月17日から23日の1週間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- d 医薬品の適正使用の重要性に関して、小中学生のうちから啓発を行うことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤